# 釧路高専若手理・工学セミナーの概要と活動報告

福地　孝平*，岡　康之**，鈴木　未央***，大前　洸斗****，登口　大**

# Activity Report and Outline of Young Seminar on Science and Engineering in National Institute of Technology, Kushiro College

Kohei FUKUCHI, Yasuyuki OKA, Mio SUZUKI, Hiroto OOMAE, Dai NOBORIGUCHI

Abstract － This paper describes outlines, like aims and characters, and activity reports of 'Young seminar on science and engineering in National institute of Technology, Kushiro College ', which was planned and convened by present writers. In particular, a participation situation of students and speakers in this seminar, current from the first to seventh seminar and a vision of this seminar are reported in this paper.

Key words ：Young Seminar, Research Cooperation, Engineering Education, Activity Report

## １．はじめに

本報告は，2013年より筆者らが立ち上げ，継続的に開催している「釧路高専若手理・工学セミナー」の目的や特徴などの概要や，実際の活動内容について説明するものである．具体的には，本年度で第7回を迎えた本セミナーの広がりや，本校学生の参加状況などの動向について報告する．

## ２．釧路高専若手理工学セミナーの概要

### ２．１　本セミナーの目的

この釧路高専若手理・工学セミナーは，様々な研究機関の若手研究者，技術者や学生による異分野間の研究・技術交流を目的として，2013年から開催してきた．また，セミナーの対象を研究者・技術者に限定せず，本校の学生も自由に参加できるようにすることで，学生たちが最新の研究，開発に携わる方のモチベーションを聞く機会にもなっており，研究・技術者教育的な側面も持っている．

### ２．２　本セミナーの特徴

前節の通り，本セミナーでは本科1年生から他分野の研究者まで広い範囲の聴講者がいるため，講演者には必ず最新の研究紹介の前に，平易なイントロダクションを付けていただくようお願いしている．

また，一般的なセミナーではセッションごとに分野をまとめていることも多いが，異分野間交流を目的としているため，本セミナーではセッションの区切りをつけずに，1，2講演ごとに長めの休憩時間を取り，その間にも交流を図れるようにしている．

このように，講演に際して少しの特徴があるため，工学系の一般的な研究講演会よりも長めの時間を確保している．図1は第4回セミナーの様子であるが，ホワイトボードなどを使ってゼミ形式で行う講演者もいる．

* 釧路高専創造工学科　機械工学分野
** 釧路高専創造工学科　一般教育部門
*** 釧路高専創造工学科　情報工学分野
**** 釧路高専創造工学科　電子工学分野

図1　第4回セミナーの様子

## ３．第7回セミナーまでの活動報告

第1回セミナーは，2013年夏に行い，講演者4名と1日で開催していた．4名の内，3名が釧路高専の教員であったことや連絡不足だったこともあり，講演者以外の参加者は少なかった．ただし，このような異分野間の研究交流や学生たちが研究等に触れる機会を設けることに意義があることがわかり，その後の第2回へと続いていった．

第4回セミナーまでは夏，冬の年2回開催していた．この頃に本セミナーの大枠が出来て，他大学からの講演者が定期的に参加して下さるようになってきた．イントロダクションにおいて研究紹介の他に，大学紹介や研究室紹介を入れることで進学志向のある学生たちにも好評を得る内容になっていた．また，この頃からできた繋がりで共同研究に発展した事例もあった．

第5回セミナーからは夏の年1回開催となり，各回の講演者は10名程度，参加者は30名を超えるようになっていた．この頃から企業でプログラミングに携わる方の講演なども出てきており，本校学生の就職に対する興味も刺激する内容にもなっていたと考えられる．

最新の第7回セミナーは，講演希望者が多く，初の3日開催となった．最終的には，18名の講演者と50名を超える参加者であった．図2は第7回セミナーの懇親会の様子であるが，初期に比べると参加者の多さがわかる．また，第7回は，講演者数の増加以外にも，若手の枠を超えた他研究会からの講演者があったことや初期のセミナーに本科生として参加していた学生の進学先からの講演申し込みがあったこと，人文科学系の講演者の発表があったことなどこれまでにない広がりを感じた．特に，人文科学系の講演では，研究課題の設定の仕方や研究の遂行方法等に新鮮さを感じるとともに，研究課題の解決に工学として携わることが出来るのではないかと新たな発見もあった．

本校学生の参加者も徐々に増えている．参加学生は，研究を志すものもいるが，進学を希望するものも多く，休憩時間等を利用して，大学に関する質問をする機会にもなっているようである．

本セミナーは北海道外からの講演者が多く，最南端では沖縄からの講演者もいた．このため，懇親会や交流会では，道東・釧路らしいことを体験してもらうことを目標に企画を立てた．例えば，図3のように，釧路湿原や摩周湖の展望台に案内し，阿寒湖畔で宿泊を伴う交流会を企画したこともあった．また，炉端やバーベキューを企画した際には，鹿肉などの道東ならではの食材を積極的に取り入れた．

各回の詳しい内容は，本校セミナーホームページ＜https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=469＞やセミナー単独のホームページ＜https://sites.google.com/site/kushirowrks/＞に記載している．

## ４．おわりに

本セミナーは，世話人となった本校数名の教員で運営しており，行き届かない点もあろうかと思われるが，多くの参加者から好評を得ている．また，本年行われた第7回セミナーでは，開催日数の増加や釧路高専出身学生の凱旋講演，人文科学系の講演など，第6回までとは異なる点が多く見られ，更なる広がりを感じられた．

今後は更に，釧路を始めとした道東地方特有の研究課題に取り組む研究者や技術者の講演を積極的に募集し，道東地方の研究者の分野間のつながりを作ることにより，道東地方における課題解決の糸口をつかむことや，学生たちにもより身近な問題として研究に関心を持ってもらえるのではないかと期待している．

図2　第7回セミナー懇親会の様子

図3　交流会として釧路湿原の見える展望台へ行った際の様子